

## ベニバナヤマシャクヤク咲く<sup>かんのみね</sup>観音峰へ

6月8日(火)同行者の車で天川村へ。虻峠トンネルを抜けた所にある「観音峰登山口」に9時過ぎに到着。広い駐車場と休憩所、トイレがある。準備を整え、9:15 登山開始。

### 桧林の中をゆっくり登る

つり橋で山上川を渡ると、道は3つに分かれる。左は洞川への遊歩道、右は「みたらい溪谷」への川沿いの道になるが、そのままヒノキ林の中を登る。たくさんのフタリシズカが咲き、コアジサイの淡いブルーの花がやさしげ。

10分ほどで「観音の水」の水場に。冷たい水でのどを潤していると、頭の上にヤブウツギが真紅の花を咲かせている。



### 要所、要所に南朝悲史の説明板

まもなく、第一展望台に着き、休憩。しっかりした展望台だが、木が生い茂って、かつての眺望は得られない。↑ベニバナヤマシャクヤク

そして此処にも、南北朝時代の歴史についての説明板が設置されている。室町時代に天皇家が後継者争いで2派に分かれた時、その一方の「南朝」方について、この地の人たちが奮闘した歴史が書かれている。

### 広々とした観音平

道は、いくつかの小谷を渡り、ヒノキ林の中を登っていく。傾斜は楽ではないが、歩きやすい。やがて、大正時代に鉄鉱石を産したという鉱山跡を右に見て、10:20 観音平に到着。登山口からのコースタイムは一時間だから、高齢者パーティのペースとしてはまずまずの歩きだ。



↑ヤブウツギ

観音平は広い平地に立派な休憩所が建っており、樹々が頭上高くに新緑をひろげており、その新緑を透して日差しが差し込み、明るく、そして涼しい。ここにもフタリシズカが一面に咲いている。

### 権力闘争のすさまじさに鳥肌

説明板によると、吉野から逃れてきた南朝の人たちがこの地に隠れ住んだとのこと。都人たちの生活を支えた村人たちの苦勞がしのばれる。また紆余曲折を経て、南朝方は滅ぼされたのだから、どこまでも追いかけていく権力側の執念に鳥肌たつ思いがする。

### 眼前に立ち並ぶ大峰の雄峰たち

斜面を少しのぼり、西側に回り込んで、急な斜面をジグザグに登り、10:50 尾根上の観音峰展望台に到着。広々とした笹原に、石垣を4段に積んだ円形の土台の上に大きく立派な石標が建っている。

そして大展望が広がっている。東に大日山の鋭峰を従えて稲村岳が峩々として聳え、南には



↑コアジサイ



↓フタリシズカ



近畿最高峰の八経ヶ岳や弥山、頂仙岳などが大きな山塊を横たえている。コロナ禍での鬱屈を吹き飛ばしてくれる景観だ。

### 笹原に咲く淡紅色の花＝ベニバナヤマシャクヤク

周囲には、広い笹原に点々とベニバナヤマシャクヤクが咲いている。柔らかな淡紅色の花が、ポワーンとした感じで笹原のグリーンに映えている。この花もまた、見る人に安らぎを感じさせる。

保護のため白いロープが張ってあるが、十分に楽しめるし、まだ蕾の株も多いので、あとしばらくは見頃が続くと思われる。



県内でもこの花の咲く山は少なく、全国的にも絶滅危惧植物とされている所も少なくない。大切に守るべき植物なのだ。

### 繁茂するジギタリス

ところが、憂慮すべき事態が進行している。笹原の各所で鮮やかなピンクの花が咲き誇っている。オオバコ科ジギタリス属の植物で地中海沿岸地域原産のジギタリスだ。繁殖力旺盛で、ここでもボランティアによる引き抜き駆除が行われたが、それをものともせず繁茂している。全草有毒なので、おそらく鹿も食べないのでますます生育域を広げられると思われる。ジギタリスには気の毒だが、生態系



↑展望所の立派な石標

↑ベニバナヤマシャクヤク を守るためにも、ヤマシャクヤクのためにも駆除はやむを得ないと思われる。

### 昼食後山頂へ

展望台から少し上った林の中で笹原を見下ろしながら昼食。  
12:00 頂上めざして登り始める。雑木林の中の道は風が通り、涼しく歩きやすい。同行者の一人が、大きな倒木の傍らにギンリョウソウを見つけて写真に収めたりしながら、ゆっくりと登り、  
12:40 三等三角点のある山頂着。標高 1346.7m。道標を兼ねた山名板が建っている。

### 下山途中で駆除作業のボランティア

↓ギンリョウソウ 記念写真をとって下山開始。ひたすら下って



13:20 展望台で一休み。ここで女性たちが「ジギタリス駆除はやむを得ないが、放置されるのも可哀そう」と言い出し、引き抜いた株や花をリュックに詰め始めた。後日受け取ったメールでは、ジギタリスは蘇生したようだ。矢張りこの花はしぶとい。

↑繁茂するジギタリス

駆除作業後、休むことなく下って 14:30 登山口帰着。運転を引き受けてくれた同行者に感謝。

### 食糧応援にご協力を

7月11日に新日本婦人の会高田支部主催の「食糧応援」が「ゆうゆうセンター」で行われます。各種食糧、野菜、日用品(未使用品)など、カンパ願います。

連絡は 090-1223-2043 森田さんへ